

平成 28 年度 第 2 回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会会議録

会議名称：平成 28 年度第 2 回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会

日時：平成 28 年 9 月 30 日(金)14 時～16 時

場所：古賀市役所第一庁舎 4 階第 1 委員会室

主な議題：①古賀市子ども読書活動推進計画について

②その他

傍聴者：0 名

出席者：橋本 由里委員 加藤 典子委員 鈴木 章委員 河村 正彦委員
村山 美和子委員 渋田 京子委員 井手 由紀子委員
青木 扶美子委員 入江 伸介委員 枡村 隆毅委員 山浦 千春委員
草野 三保子委員 以上 12 名

欠席者：2 名

事務局：5 名

配布資料：①レジュメ

②古賀市子ども読書活動推進計画のまとめ

③古賀市子ども読書活動推進計画項目対照表

会議内容：以下のとおり

1 開会のことば

(事務局) 開会の言葉を文化課長星野よりいたします。

(課長) 皆さんこんにちは。7 月にごさいました第 1 回から約 2 か月がたとうとしております。大変過ごしやすい季節となりました。
今日は資料も大変多ございますけれども、スムーズな進行のほうよろしくお願ひいたします。

2 会長あいさつ

(事務局) 続きまして、鈴木会長よりあいさつをお願いいたします。

(会長) 皆さん改めましてこんにちは。
初めての方もいらっしゃると思いますので、改めて自己紹介しますが、現在福岡教育大学で司書教諭の資格の科目を 2 科目受け持っているところでございます。会長ということでもありますので、進めさせていただきたいと思ひます。
近くの公園を歩いていましたら萩の花が咲いておりまして、天候が不十分ではありますけれども、季節は本当に着実に進んでいるなということを改めて思ひます。
子どもたちの読書のあり方を計画の中で今一度考えていくことが必要じゃないかなということを思いながら、始めの言葉といたします。
どうぞ今日はよろしくお願ひいたします。

3 協議等

(1) 古賀市子ども読書活動推進計画について

(事務局) それではさっそく本日の協議に入っていきたいと思います。
これから先の協議につきましては、鈴木会長にお願いしたいと思います。
よろしくお願ひいたします。

(会 長) それでは協議については私のほうで進行させていただきます。河村副会長さんにも応援をよろしくお願ひします。

第 2 回になりますので進めていかないとはいけません。協議にじっくり時間をとっていきますのでよろしくお願ひします。

第 1 回の会議で小郡方式か宗像方式かという話が出ました。その確認を先にしていきたくと思います。小郡方式というのは、小郡市子ども読書活動推進計画がいわゆる 18 歳までの子どもを対象にした推進計画です。宗像方式は、市民全体、生涯学習という観点で市民全体で進めていこうというもので、子どもの読書も含めて高齢者も成人の皆さんも含めての計画です。前回、福岡県立図書館の杉村先生のお話の中で 2 つの方式を御紹介いただいたわけですが、やはり子どもに限って推進計画を出していったらどうかと私は思いますがどうでしょうか。つまり 18 歳までを対象とした計画であると。このことについてどうでしょうか。異論がございましたら。なければ、よろしいでしょうか、その方向で良いですか。いわゆる小郡方式、いやこれはきっと古賀方式になるということで、18 歳までの子どもを対象にした計画づくりということにいきたくと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

ここからは、前回課題になっていた地域、団体やグループで、これまでの成果と課題をまとめて来ていただいた委員さんがいらっしゃる言っていた言いたいなと思います。前回、電子書籍の動向をどう組み入れていくのか、その辺りも話が出たと思いますが、その取り扱いについても御意見がありましたらお聞かせいただきたいと思ひます。

事務局から計画の章立ての案が出ていますが、成果と課題のご意見の後考えていこうと思ひています。

平成 24 年度に改訂版を作成した後 5 年間、こういう形で進めてきた、こういうことが成果として言える、こういう課題が出てきたということがもしあれば。草野委員さんありますか。

(草野委員) 初めてお会いする方がいらっしゃるかと思ひますが、前回所用がありまして欠席させていただいた草野三保子と申します。公募に応募させていただきまして、この席に座らせていただいておりますが、私の人生の大半は子どもの読書という感じなので、これをぬかしてはならないと思ひて参加させていただいております。

今会長さんがおっしゃったその成果というのが私にとってはとにかく見えにくくて。今私たちは地域文庫と古賀子どもの本の交流会で 0 歳、マタニティの人から子どもの読書はあるんだということで関わらせていただいております。とてもスタンスが長いものだと私は思っているの、5 年間の成果をいわれたら何とも言いがたくて、5 年のずーっと前から 20 年、30 年経って人と出会ったときに「あ、あの時の」と成人になった人から声をかけられることがこの頃あるんですね。地域文庫も 40 年を過ぎましたし、古賀子どもの本の交流会も 30 年を過ぎましたので、スタンスが長いというのがあって、5 年の成果といわれましても書きづらくて私書いていないと思ひます。

大人になった時に、一市民として成人として話ができるというのはやっぱり読書のおかげかな、子どもの時に出会ったおかげかなと思ひておりますので、申し訳ないんですけど、スタンスの長いものだと思ひています。

先日、毎日新聞の朝刊に東京子ども図書館名誉理事長の松岡享子先生が記

事を寄せてありまして、アメリカの児童図書館では多国籍の利用者がいっぱいいて、よい市民として社会の一員となれるように、読み書きや生活習慣を教えていますという図書館のあり方がありました。これは本当に子ども図書館というところの子どもの読書にかかわる者の大事なることかなと読ませていただいています。お答えに合うかどうかわかりませんが、以上です。

(会 長) ありがとうございます。

最初から成果と課題と言ってしまって難しいことを言ってしまいましたかね。最近子どもたちが活発になってきたとか、こういうことが良いにつけ悪いにつけ変わってきたといいますか、そんなことでも結構だと思います。

(渋田委員) 古賀東小のぐりとぐらの会です。会が発足して 17 年になります。会が発足 2 年目から朝読書、週 1 回の朝読あるいは年によっては週 2 回の朝読と週 1 回月曜日の昼休みの昼読をずっと途切れなく続けています。

活動をしていく中で、会員皆が思っていることは、1 年の時よりも 6 年になったほうがしっかり聞けるようになるし、同じ本を読んでも「受けとめ方があの時とは違ったよね」というような会員からの話があるので、そういうところが長く続けることの大事さかなと思っています。

今後ともこういう事業を継続して行って、メディアに負けないよう、本が好きと言われるように、子ども達へ 1 冊でも多くの本との出会いの懸け橋になればという気持ちでやっていこうねと話しています。ただボランティアなので、働く親が多くなってなかなか会員が増えないので、ボランティアとして子どもに対してかかわる時の 1 番の難点は 10 何年前に比べて人が集まりにくくなっているというのが課題になっています。

この推進計画をつくるにあたり、ボランティアに頼るのも一つですけど、市を挙げてあるいは学校を挙げて本にかかわれるような体制を計画の中に盛り込んでいくのが、子どもが本離れから離れるのを食い止める第一歩となるのではないかなと思っています。

(会 長) ありがとうございます。まさに継続は力なりですね。

私は 2 年前まで宗像市立自由ヶ丘小学校で朝読を支援している地域のボランティア、お話どんぐりというグループに入っていて、忙しくなってやめていたんですよね。「何かあったときに応援ぐらいするよ」と言ったら、本当に 2~3 日前に「10 月から 1 か月 1 回でいいから手伝ってくれる」と。「どうして」と言ったら、これまで対象は 1 年から 4 年までだったんですね。ところが、「5、6 年生もやってくれ」と保護者から強い要望があるので学校としてもその動きにじゃあいこうかと。1 年から 4 年は月 2~3 回やっているんですけど、5、6 年生も月 1 回だったということなので 5~6 年までその朝の読み聞かせの活動を広げることになったんですよね。今言われたように保護者の要望等とか地域、先生方はお願いしますということのようですけども。

「これまで 4 年生までやってきたから 5~6 年生も頼むよ」と言われるというのはとても良いことで意義もあるし、子ども達が本当に満足して一日のスタートとして良い活動なんだということが保護者にも地域の方にも非常に認められてきつつあるといいますかね。今お話を聞きながら本当に、積み重ね、継続が結果として子ども達とそれを取り巻く親御さんへの思いにつながっていたんじゃないかということに改めて今お聞きして思いました。ぜひ続けていくということはこの計画の中に盛り込んでいくという事を今おっしゃいました。なるほどなと思うんですね。ほかに何か。

(入江委員) 古賀竟成館高等学校の入江です。

お手元の資料の古賀市子ども読書活動調査用紙のまとめの 22 ページをお開きください。本校の取組としまして朝読書というのを入れています。その下

に玄界高等学校さんがお書きいただいている分があるので比較できると思います。本校の場合は各クラスで 40 人前後います。ちなみに僕は 1 年生の担任をしていて 45 人いるんですが、全員が同じ本を読んでいます。

本来の目的は落ちつきがない生徒たちに、朝ホームルームの前に、静かな朝を迎えさせることを目的に朝読書を取り入れたようです。

実際問題としては今生徒たちが非常におとなしく時間前から読んでおりまして、今日も 9 月 30 日、月の終わりなので、読后感想文を書いてもらっていたんですけども、率先してやっていくような雰囲気があって非常に良い流れができております。

事業の成果としてはそうなんですけれども、今後の課題としてはやはり 45 人 50 人、担任副任入れて 50 冊という指定図書を毎回揃えていくというのがやはり非常に予算がかかるということなので、何とかしていきますというふうには教育委員会の方からはお話をいただいているみたいなんですけど、管理職のほうがですね、やはりどうにかならないものかなってという面はあります。どんどんその 50 冊がたまっていっているということです。以上です。

(会 長)

今日配られた子ども読書活動調査用紙のまとめの資料を見て、入江先生が 22 ページを見てくださっておっしゃったように、こういう形でお話ししていただいても結構です。

今お話聞いている、これからの今後の計画の中に私は一つ大事なことを思うんですけど、今朝読を先生方が何も言わなくても生徒がどんどんやっていく、そして静かになってやる、これはまさに主体的、自主的そういう言葉で括れるかわかりませんが、子ども達が自分達でもやっていくんだという、それが高校生だからっていわれればそれまででしょうけど、やらされるということからやるんだということに変わっていく面で、主体的自主的に子ども達が読書にかかわる活動ができていくような段階に進めていっていいんじゃないかと思うんですよね。

計画の中に、子ども達は自分たちで読書にかかわる活動をさせられるんじゃないか、自分で何かする、会議を開く、グループで何かを取り組むチャンスや機会を与えていくことによって、自分たちでやっていくことができるんじゃないかなという気がするんです。最初とっかかりはいるかもしれませんが、小さなことからいいから、学校、地域、文庫、自治区の行事的なことでも何かいいと思います。どういう取組をするかはいろいろあると思いますが、子ども達に取り組ませていく。それが中学生や高校生が地域で主体的に動くことになっていくと良いんですけどね。例えばそんな形で、読書活動における子どもたちの主体的な活動、取組を支えていってあげたいっていうんですかね。きっとやれるはずだと思います。この計画中に盛り込まれていくような次期計画の内容じゃないかなというふうに私は実は思ってるんですね。

(村山委員)

コスモス文庫の村山です。コスモス文庫については、2 ページにあげております。基本的な活動としましては毎週土曜日、3 時から 5 時まで 2 時間、貸出時間を設けて児童館の本と市立図書館からの配本を貸出しをしております。月曜日を除いてすべての曜日に職員がいらっしゃいますので、自由に本を読んでもいいようになっております。

文庫活動というよりも児童館の活動のお手伝いのような感じでもあるんですけど、20 数年間、毎週土曜日の貸出しと 1 年に 1 回か 2 回の楽しみ会などをきちんと行い、お楽しみ会では会員以外の人も集めまして、文庫の良さなどを啓発するというようなことも行っています。

この間の会議で、中学校から高校に向けての読書量が非常に減っているということで、びっくりいたしましたけど、文庫の手ごたえからすると、さもあるような感じですか。どういう状況があるかといいますと、幼児期は

熱心に親御さんもおいでになってそのうちに自分で来られるようになって「自分で借りて家読ができるようになったね」とほめるわけです。高学年になってきますとスポーツクラブに入ったり、ほかにお友達が来てなかったとか親御さんもあまり言わなくなったということで、来る回数が減ってくるとかおいでにならない方が多くなってきます。

その時に、私達も「そうやね、中学になったら忙しいもんねえ、クラブとかあってね」とか、「学校の宿題も多いしね」と言って仕方がないかと受け入れておりましたが、ここが1番の問題だった、それから先も続けて子ども達を引っ張り続けなければならなかったんだなと反省しております。

文庫には結構たくさん本があるんですけど、学校と同じ本があると喜ぶ子とそうではない子がいます。喜ぶ子は「学校に1冊しかないからなかなか回ってこないけど、ここでなら借りられる」と言います。反対の見方をする子は「これ学校にもあるもん、わざわざここまで来て見らんでもいい」と言います。この二つの見方があって、よく読む子はここに来ればたやすく手に取り借りることができると思うのですが、余り関心のない子たちは品ぞろえで同じならば学校の図書室でいいかなというような感じで広がりがなくなってくるんですね。

そういう子ども達はあまり本を読んでいないからそういう感覚になるのかなと思います。本当に借りようと思うと、先生が紹介なさった本っていうのは1冊2冊しかありませんから、なかなか手に入らないので順番待ちになるわけですけど、そういうふうなことで困った経験がないのかなというような感じも持っています。

20 数年間の貸出しの活動を通して思うことは、やはり家読をしている子はいらっしゃるし、こういう方法をとれば、そういう子どもたちが育ちますが、実に数が少ないわけですよ。途中で何々があるからということで、やめていく子が多いと。しかし文庫を行っている私どもの考え方からとすると、学校にもございますが、自分でアクションを起こして本を借りに行こうとすれば市立図書館は遠いから、近所の文庫を利用しようと、この一歩踏み出す力が将来子ども達が本好きになりそして本を読み続ける底力になるんじゃないかと思っております。

ぜひ地域の方にもその一歩踏み出す自立に向けて支援をしていただきたいなと思っておりますが、これも反省点ですけれども、なかなかそこまで地域で啓発することができなかったということです。ここは非常に問題だなと私自身が思いますし、文庫をずっと支えていました私の家族も、地域とのつながりがあまりございませんでしたからそれが1番大きな原因ではないかなと思っております。今後やっぱり地域のほうに出ていろいろな活動をしなくてはいけないだろうなと思っております。

やはり文庫で家読をする子っていうのは必ず増えてくると思います。そういう見通しはあるんだけど、なかなかそれを広げていくことが難しいと感じています。以上です。

(会 長)

ありがとうございました。

今まで文庫に入っていた子がやめていくといいますかね。

小学校の低学年、中学年ぐらいまではいいけど、5~6年、中学生になってくると、他にやることがあるし、小さい子ども達の場合だからという感じで、スポーツ、その他サークル、進学の問題など、そういったことも含めて、それを取り戻す、呼び戻すといいますかね。小学生や中学生が何か自分たちでやっていくという指導、高校生が自分で参画していくといいますか、何人かが関わっていくような取組が必要じゃないかと思っております。啓発が不十分じゃないかということですが、計画の中の三つの柱の二つ目に普及理解という項目がありましたね。つまり、市民への啓発をもっと充実していかななくてはということはこの計画のなかでも言うていく必要があると思っております。同時に、

村山委員さんがおっしゃったように、地域の図書館なり文庫の充実が必要じゃないかというお話がありまして、図書館分館的な形になるかもしれませんが、それで地域をもっと充実していく、増やしたり質を変えていくなり、それは予算が伴いますし管理の問題もあるでしょうがそういったことも一つ課題じゃないかというのをおっしゃいました。

同時に並行してそれを啓発していく、皆に子ども達の読書の重要性は認識してもらうために啓発をしていくということ、皆が「なるほど、大事やねえ」ということをもっと今後行っていかないとはいかんじゃないかと。

そして、家読をもっと発展させていくっていうのは、計画の課題じゃないかなということでしょうか。

ほかにどうでしょうか。関連意見でも良いし、違うなということでも結構です。はい、どうぞ。

(加藤委員)

こんにちは、加藤です。社会教育委員をさせていただいております。

自分はここ 6 年ほど小中学校の図書館司書、地域では地域文庫をしていますが、その中で感じてきたことを述べたいと思っています。

地域では、自分が活動している中では地域の理解が広がってきたなと感じています。草野委員さんや渋田委員さんが言われたように、長く続けてきた結果、地域の大人たち、特に地域で本や子ども達に興味のない方が興味を持ってきて、活動に参加してくれるようになったことはとても喜ばしいことだと思っています。

先ほど会長が言われたんですけれども、子どもが主体的にかかわるということに関しては、今、子育て支援課で子ども条例の策定に取り組んでいるところです。子ども条例というのは子どもの権利を念頭に置いたものですが、子ども、大事なことは子どもの最善の利益と子どもの主体性です。

読書をもっと広げていくためには、主体的に子ども達が子どもに働きかけていくような取組が有効だと感じています。

昨年度まで 3 年間、学校教育課が中心となって子ども読書リーダーの取組をしました。子ども読書リーダーの取組というのは、学校の中の活動だけにとどまらず、地域に出ていったり県立図書館へ研修に行ったりしました。研修に行った成果を地域で生かす活動、保育園で小・中学生が実習をしたり、うちの文庫には中学生と小学生の読書リーダーに実際に来てもらいました。

私たちが演じたりするよりもという悲しいんですけれども、本当に聞く側の子ども達が目をきらきらと輝かせていて、伝える側の 5~6 年生、中学生も非常に充実感を感じていました。1 年間の活動が終わった時に、中学 3 年生の子に「何が 1 番印象に残った？」と聞いたら、「地域に小さい子ども達に読み聞かせに行ったのが 1 番心に残った。自分は子どもにかかわる活動がしていきたい」と言ってくれたのが涙がでるほど嬉しかったです。本当にそういう活動がこれからはできていくんじゃないかと思います。

古賀市は学校に対してもかなり潤沢な図書予算を計上していただいていると恵まれていると感じてきました。その恵まれた予算を生かしていければいいなと思っています。

社会がどんどん変わっていき、学校でも地域でも多様なニーズを抱えたお子さん達が非常に多いと感じています。学校では専門の資格を有した教職員の先生方がそういう子どもに対応することができるけれども、地域では普通のおじちゃんやおばちゃんが多様なニーズを要した子どもに関わらなければならない、その辺が課題かなと思っています。地域で子どもにかかわる大人はやはり学んでいかないといけないところもあるんじゃないかと思います。

学校の課題として私が感じていたのは、親子読書の位置づけです。親子読書は古賀市の非常に大きな特徴ではありますが、位置づけがあいまいなところがあって、司書が囑託化された段階でいろいろな条件が出てきてしまったせいもあるんでしょうけれども、親子読書の位置づけと意義ですね。今、働き

に出る保護者の方が非常に多くなっている中で、親子で参加するということが難しく、子どもが親子読書に参加したいと思っても、親と一緒に来られないと基本的には親子読書に参加できないんですね。でも親子で参加する意義というのも大きくて、非常にその辺のジレンマがありました。また親子読書会の位置づけですかね、これで見ると何か学校側に書いてあるんですが、正直言って学校の校長先生とかはあまり理解されておらず、親子読書を課外活動のような形で考えているのではないかなと思っています。その辺も、図書館主催であるのであれば、もう少し学校側に周知していくとかそういう必要があるのではないかなと思います。

学校での今後の課題のもう 1 点は調べ学習の取組だと思います。古賀市は読書教育は進んでいると思いますが、調べ学習についての取組が少し弱いと感じてきました。特に子ども達、中学生でもウィキペディアで調べれば何でも出てくるとなっています。参考にするため、調べるのにウィキペディアを利用するのはありだけれども、ウィキペディアにでていることをそのままレポートに書くのはだめだという話をするんですけども、そういう情報教育ってかなり必要で、調べ学習はインターネットを使えばいいと思っている子どもたちが非常に多いです。ここは課題だと思っている、本を読んで調べることでもっと多くの情報が得られて、しかも色々な情報を比較検討して、どれが今自分にとって必要な情報かっていう、これからは情報を取捨選択する能力が絶対必要だと思うんですけどそこを養うにはインターネットの情報だけではなく、やはり本を調べて読み込んでいく力が必要だと思っています。今後の計画の中に盛り込んでいけるといいのではないかなと思います。

(会長)

今この分厚い子ども読書活動調査のまとめの資料をもとにして今後成果と課題をそれぞれ団体グループで出してくださいと言っています。

学校教育の進め方の課題、調べ学習のあり方、読書の活動、学習活動に図書館を生かすという課題があると思います。もう一つ、読書活動の一つとして、アクティブラーニングという言葉がありますが、調べ学習をネットも含めて紙媒体である図書館の様々な資料を駆使して、自分たちが自主的主体的に動いているような学習を充実させていくということだと思います。今、加藤委員さんがそういったこともいれていくべきじゃないかなという話が出ましたね。最初の方で言われた、子どもの目が輝くという言葉に私は反応するんです。子ども達や親が自分たちで工夫して、例えば高学年の子、中学生や高校生が子ども達に何か活動する、読み聞かせでもいいし、劇でも何でもいいのですが、その時の子どもの目の輝きが違うと。これまで私達が取り組んでいることももちろん大事だけれども、子ども達が自分たちで活動を展開していくようなことをやっぱり進めていくべきじゃないかなと思うんです。

もう一つの課題として、親子読書の学校での進め方のそれぞれの学校の理解といいますか、原点に戻って親子読書の意義というのを考えていかなければいけないんじゃないかなということも言われました。その辺り、他の方も経験されているのをお話ししていただければと思いますけど。

(青木委員)

民生委員児童委員の代表の青木です。

資料の 5 ページの「花見東 2 区子育てサロンおんぶらーじゅ」は去年の 6 月から始まった事業です。今現在の状況を教えてくださいということで提出しました。

私は花見東 2 区という自治公民館にいるんですけども、5 年ほど前から高齢者が集う喫茶店があり、来られている高齢者の方と子育て中の親子が自然と交流ができるサロンができないだろうか、世代間交流を去年の 6 月から始めました。第 2 第 4 木曜日にやっているんですけども、サロンは第 4 木曜日 10 時から 12 時まで 30 分程度、絵本の読み聞かせをしている状態です。

最初は子ども達も集中できなかったんですけども、1 年ぐらいたつと、子

どもも大きくなり、新しい乳児たちも来ますので、お兄ちゃんお姉ちゃんの姿を見て、小さい子もお母さん達にだっこされながらしっかりと聞くような状態になっております。絵本は図書館からも借りるんですけども、「でんでんむし」さんに乳児クラスの絵本がありますのでおもちゃなどとともに借りている状態です。「古賀子どもの本の交流会」さんにも年に3回ほど来ていただいて読み聞かせしていただいている状態です。

花見東2区の公民館の中はホールや和室とともに子どもが使えるようなホールをつくってほしいということで小ホールがあります。壁紙も可愛い子ども向けになっていて、本棚があるんですね。

花見東2区に住んでいらっしゃる方が福岡市に行かれる時に雑誌「こどものとも」の昔から読み継がれている本をたくさん残していかれました。

本当に立派な本がたくさん残っていますので、1年前に子育てサロンを始めるに当たって全部きれいに拭き上げて本棚に入れておきますと、お母さん方も「これ見た事がある」と言ったり、小ホールでおけいこしている子ども達が自然に手をとって読むような状態になっております。

課題は、年齢層が0歳児から2~3歳児と対象年齢の幅がありすぎますので選本が難しいです。今後は赤ちゃんの時からすぐそばで絵本とふれ合えるような環境づくりと読み聞かせをしていきたいなと思います。今ずっとお話を伺っておりまして、お母さん方もネットをすぐ信じてしまうような状態になっているところもありますので、本に触れて、違うんだよっていうのを少しずつ、お子さんが小さい時にお母さんに向かってお話をしていくと小中高に上がっていくのかなと思いますのでその重要な部分を何か話していったらいいのではと思っております。以上です。

(会長)

ありがとうございます。

私も実は今年自由ヶ丘地区の福祉会の事務局長として会長と一緒に走り回っています。見守りの必要な高齢者の方々に対して色々なサロンなどをやっています。今お聞きして大変よくわかるんですが、先ほどの話とも関連して、地域にあるいろんな集会所、公民館を活用して、福祉委員のおじいちゃんおばあちゃん向けのサロンの活動の中にお兄ちゃんお姉ちゃんの活動と活躍の場を取り込むといえますか。若い世代、子育て世代はなかなか時間的に何か難しいとなれば、お兄ちゃんお姉ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃんともう本当に活動して交流していく中で子ども達を育てていくということも大事じゃないかなと思います。市民が子どもの読書活動を支える理解支援の中に、今後もっと増えていくであろう高齢者の方々をぜひ生かして活躍の場を広げていく、そのことが高齢者の生きがいにもなっていくと同時に、子ども達も核家族でおじいちゃんおばあちゃんと暮らしている子が少ないわけですから、そういう形でかわりながら子どもの読書活動を進めていくということも大事じゃないかなと思います。

(草野委員)

皆さんのお話を聞きながら自分の中で整理させていただいた事があります。最初は松岡享子先生のよい市民を作るっていうアメリカの児童図書館のあり方を申しあげました。多国籍のいろんな方、私たちの間にもいろんな方がいらっしゃいますが、よい市民をつくるのが読書の一つの要だというところ、成人になってもというのが根ざしているのではないかなと思うんです。子どもの読書といえども、どこを目指しているかといったら豊かな大人であったり社会であったりと私は思うんですね。

大枠のことを自分の中にずっと思ってやってきて最近気づくのが、子育てサロンも文庫さんもそうなんですけど、なぜ文庫かというと、生の声で読んでくれる大人がいたり、本が貸出される環境があるというのが大事だと思うんですね。親子読書さんも本当は家で椋鳩十先生が最初に提唱されたのは「親子で本を読みましょう」というのが始まりだったと思うんですね。いろ

んなパターンに変わっているとは思いますが、やっぱり家に本がある、誰かが読む生の声がある、言葉があるということが大前提だと思います。

私は大人になるための年齢の幅があると思うんです。お腹にいるマタニティの時、赤ちゃんが生の声を聞いている、お父さんが読んだりおじいちゃんが読んだり、生まれてくると乳幼児までの間に、一つの節目があると思うんですね。7歳まで、4歳まで、保育士なのでそこを考えちゃうんですね。だんだんあがっていくと、小学生低学年、中学年、高学年、中学生、高校生、大学生になっていくと思うんですけど、今思うのは、声が届かない、生の声が聞かれてないっていうのは、ボランティアである私たちも頑張ってるんですけど、低学年までの生の声、言葉の臨界期というのを学校の先生はすべて御存じだと思うんです。8歳までに臨界期があるんだというのは書物で読みましたけれど、日本語と今から5年生から英語が必須条件になってきますよね。もちろん今からされていると思うんですけど、日本語の特性というのがありまして、本を読むということ、文字を読む、言葉を知ることのすごい大きなくくりがあるように思うんです。以前お話しさせていただいた言葉を知ること、3年生で辞書引きをしたらどうかと思います。電子辞書やインターネットはあるけれど、言葉の事柄を知るという意味で、手を煩わせてでもどの子にも辞書を引ける力をつけることを古賀市の中に投入してほしいなと思っているんです。言葉を知っていくことは喜びになると思うんです。人の会話とかいろんなことを読み解くことができる、そして文字の獲得をして初めてみずから読めるようになると思うんです。

聞いていて、それが文字の習得と一緒に「あ、本が読めた。大きな字で書かれて、これ面白いよ」と言ってきたうちの子の経験があるものですから、文字が読める喜びと本を読み取る気力というのは読み聞かせをずっと続けてきてからの結果だと思っているので、文字の習得というのはどこかなというのを今すごく感じさせていただいて辞書引きって何とかならないかなって、非常に私は小学生の間が大事なかなと思っています。

長くなりますけど、たけのこ文庫は卒業するというのではなく、小学生バージョンで「みみずクラブ」というのがありまして、この子たちは科学遊びしたり人形劇をしたり畑を耕したり、コスモスの花を植えたりしているんですけど、物語プラス科学的な要素を子ども達はほしがっているんじゃないかなと思います。何かをつくり出す、ものづくりをする力が本来特に日本人は大きい気がします。科学という分野を打ち出したところもあり、私は科学物もやる、物語もやる、お話会もやっているんですけど、古賀市の農村地帯は科学の宝庫だと思うんです。食の文化とかいろいろやってらっしゃるんですけど、そういうところにもうちちょっと私たちも目を開きながら広がっていったって関わることも読書だと思っているので、何かできないかなと思います。本当に小さい0歳や1歳の赤ちゃんのときは親や大人にゆだねるしかないんです。でもお母さんが疲れていたら絵本は読めません。正直、そういう状況も今あります。それによって子どもさんがちょっと発達がゆっくりになったりする状況も確かにあるので、そういう支援という方法は図書館が赤ちゃんおはなし会とか小さい子のおはなし会とか私も地域でしていますけど、大きなくくりの中の支援というのがどこかあったかなと思って読んでいたんですけど、ないような気がいたしましたので、途中でですけど発言をさせてもらいました。

何においても、読書環境っていうのは、おうちに本があること。だから、貸出しされている、読まれる、買うのはいいですよ。雑誌の「こどものとも」といっても400円しますからね。図書館で借りて、お母さんが「やぶったら困るから」と言って借りられないお母さんもいたので、地域の公民館でやっていらっしゃるサロン用にして貸出し所が置けるようなのをつくっていただくと、もっと地域の高齢者も「え、こんな絵本」という形になっていくかなと。環境づくりは今の時代大きいかなと思っています。

(会 長) 本当に読書活動の充実には人づくりとともに今いわれたように地域づくりにつながるんじゃないかという指摘だと思います。

(井手委員) 本園は委譲して3年目ですが、その間で感じることは、私も保育士として、30年以上になりますけれども、実態から見て親御さんが変わってきているということです。今うちに絵本がどれだけあるんだろうと思います。本園も絵本の貸出しをしています、忘れる子は同じです。本園でも1日3回4回絵本の読み聞かせ、外部からの絵本の読み聞かせに来ていただいています。本園に外部の読み聞かせの方が来られると「あ、お話の先生が来てくれた」とすごく喜ぶんですね。

私は園長ですが毎日1回は年長さんのクラスに行って読み聞かせさせていただいています。うちに絵本がない子は絵本に触れる機会がないために絵本に興味がないんですよね。後ろ向いていたり、もぞもぞしていたりした子が、毎日の積み重ねでいつの間にか絵本の中に入ってくるようになっていきます。もともと絵本が好きな子は想像の中に本当に入り込むんですよ。その子その子で価値観は違うんですけれども、自分がイメージをしているような発想をして中に入り込んで、時々「先生、どうなると、この子」などと話をするんです。入りきらなかった子は最初本当に後ろを向いていましたが、いつの間にか絵本を1番前に来て見えています。想像力が低いんですけれども、それなりに絵本を見る力がついてきたなと思います。

先ほど草野委員が言われましたけれども、言葉の習得というところで、その中で知らない言葉がいっぱい出てくるんです。絵本を読んでいる間は中断しないんですけれども、「先生、これどういう意味？」と子どもたちが聞くもので、分からない言葉はその時に言っていきます。その中で言葉の使い方を子ども達は知っていくんだろうなって思いながら、絵本の中に入りきることと、言葉の習得というところの2点が絵本の中でとてもすばらしいことじゃないかなと思っております。

子ども達への絵本の読み聞かせがおうちでできているかなというとなかなか難しく、そこが保育園での課題になっています。絵本の貸出しをしていて、悲しいことに落書きがあることがあります。1番ひどかったのが1週間前です。「これは水の中に浸かっただろうな」というぐらいふやけて本が返ってきて、「ごめんなさい」って言ってくださればいいんですけれども、子どもに持たせてそのままの保護者もいらっしゃいます。ふやけた本を持ってきたときには、保護者の方を呼んで「これって水の中に浸かってないかな」と言うと、「私も知らないんですよね、いつの間にかこうなっただんですよね」とおっしゃって、悲しいなということが多々続いています。三、四回続いた保護者がいらっしゃいまして、「もう絵本借りない」ととても悲しい一言を言われるんですよね。その捉え方はちょっと違うかなと思いながら、その保護者の本に対する意識が少ないのかなというのは、その案件を通して今とっても悲しい課題になっています。おうちの中の絵本のあり方、子ども達にとってどういう影響があるのかというのをもうちょっと私たちも、保育園の中で子ども達を通して親に発信すること、そして保育園側が親に発信すること、この2点をこれからの課題でしていきたいと思っています。

先ほど調べ学習のことがあったんですけれども、本当に子ども達は図鑑を持って虫博士のように、虫がいれば図鑑を持って調べる、お花があれば「これは何だろう」とか、訳の分からない毛虫がいれば「先生、この毛虫は何か。蛾の幼虫かな、ちょうの幼虫かな。図鑑持ってきて調べよう」と言って調べていて、それも一つの調べ学習じゃないかなと思います。そういう経験を0歳から6歳の間にいっぱいさせてあげることが小学校中学校にいずれ行った時の積み重ねの一つ、第一歩になるんじゃないかなと思ってさせていただいています。

(会 長) ありがとうございます。

(村山委員) コスモス文庫の村山です。私は小学校教師を長いことしておりまして、すごく悩むところがあります。全体に普及しなければならないなら学校ですればいいんじゃないかなっていうことがありますよね。家で読むように先生たちが言えば、もっと本を読むんじゃないかという意見も出ていましたよね。

しかし学校はそういうものが集積しているところで、例えば健康とか、防災など、分刻みで入れて息もつけないくらいびっしりの状態です。

私は、古賀市のブックスタートから始まって、文庫活動にしてもよくなさっていると思います。朝の読み聞かせ会、おはなし会、先生たちも何もしてないかというところ「1年間にみんな140冊読もうね」と言って、びっくりしたのは身体測定の待つ時間まで本を読ませているんですよ。

そこまでやっていてなぜ中学高校になるとバタッと本を読まなくなるかということですよ。だからそこをしっかりとらえてやっていかないと解決はできないだろうと思います。

学校では国語の学習も以前とずいぶん変わってきていると私は思っています。本を読むのでも比べ読み、一つの教材があればもう一つ本を選んできて比べながら読むとか非常に工夫した授業をなさっているわけで、この上学校にとというのはなかなか難しいところもあるかなと思います。

今やっていることは大変充実しているわけですよ。皆さんのおっしゃっているところは本当にすごいと思うんですけど、それをやっても中学校から先バタッと落ちるんだったら何か他の方策を練らないと先が続かないのではないかと今お話を聞きながら思いました。

(副会長) 実践活動に即したいろんな報告や反省、成果を聞かせていただきました。私の場合は実践がほとんどなく、大学教育に携わっておりまして1市民として伺っています。私の立場からは、兼務している図書館協議会も含めてこの問題は大事だというのが一つ二つあります。社会的な情勢の変化、いわば社会構造の変化を私はものすごく感じます。最近皆さんは格差や貧困という言葉をよくお聞きになると思うんですが、第2次大戦後の良き市民をつくるような市民社会を中心とした社会から、資本主義が極端に分裂して行って、巨額の富を持つ1%の富を握る人と、今まで厚くあった中間層が疲弊してきて正規の働きも勤務もできないような人々がどんどん増えてきて、あつという間に40数%の人々がまじめに働こうとしても定職がない。正規の雇用が無い状況になって、年齢も高くなって30代の半ばまでになると、自分たちの生活をするのが精一杯ですね。そういう家庭にも子どもさんが生まれた場合には、今井手委員や村山委員がおっしゃったように、社会の家庭の本来のあるべき機能がかなり衰退して崩壊している中、読書の問題だけを持ち込んでも到底対応できません。

私も教職課程で学生に教員免許を与えてきた立場で直接の関係者ではありませんが、学校現場では本当に現場の先生方は過密なスケジュールで理科教育も国語教育も社会性もあらゆることを教えておられ、負担を強いられてもう精いっぱいなっています。読書については、国語教育の中でもなされているし、非常にある意味手一杯の状況があると思います。読書とか国語教育とか人間性、社会性の教育が十分できないような家庭をどうするか、これも大問題です。我々がこの一委員会で解答が出せるような問題ではないけれども、そういう問題も私達は考えておかないと、読書だけの限界を超えています。視野の中にそういう視点や意識を私たちが持った上で個々の実践を考えないといけません。非常に総体として今、問題として顕在化して表れているんだと思いますね。

もう一つ重要な社会的な広がりを持った問題があるんですが、中学生、高

校生になると読書から去るのはどうしてだろうかということで、図書館協議会でもそういう問題が出てきています。私はそこにあるのは 21 世紀という社会の宿命ではないかと思います。アルビン・トフラーが 1970 年代に有名な本「第三の波」を発行しました。分厚い数百ページの本ですが、この中に第一の波は農耕社会、第二の波は産業社会、第三の波は情報化社会とあります。情報化社会に変わった時点から社会的な変化が起こっているわけです。

情報化社会の進展というのは Windows95 が入ってからだと思います。専門家が特殊な言語で理系の言語をプログラムに打ち込まないとできなかったのが、一般の人が Windows95 以降、21 世紀に Windows が発展してさらに情報化社会にダイレクトに入り込むことができるようになったんです。

今子ども達が中学校高校に行った時に、意識や情報の根源がどこに移っているかということ、本ではなく、情報の社会、それからソーシャルシステムの中に組み込まれていて、新しいコミュニケーションの中に興味が流れ込んでいるし浸っているわけですね。児童の段階でまじめに本を読んでいた子ども達をどうやって情報社会の新しいコミュニケーションから取り戻すかということと大問題で到底答えはできません。けれども、そういう問題意識を私たちはどこかで持ちながら具体的な読書会の運営なり子どもに対する読書指導の問題の議論をする全体を考えていく必要があるんじゃないかと私は常々思っていました。難しいことを言うようかもしれませんが、私の立場として、今考えてきていることはその 2 点です。

(会 長) ありがとうございます。
 そういう状況のなかで橋本委員さんいかがでしょうか。

(橋本委員) 遅れまして申し訳ございません。
 項目対照表は第 3 次ということで色を変えて、これを論議してあるんですよ。

(会 長) 項目対照表は後でいたしますので、今はこちらの計画のまとめをみながらやっています。

(橋本委員) 項目対照表の縦軸を見ていたんですけれども、すごく整理されていると思いました。第 3 次の一章二章に合わせて、家庭、地域、幼稚園、保育園そして学校での取組ということで、縦軸でこの 5 年間の整理をされていてすごいなと思います。平成 18 年から 10 年間の取組が社会の情勢の変化によって変わってきて、コミュニティが入ったり地域文庫との連携が入ったり児童館の連携が入ったりしています。この推移を見るだけでも古賀市の読書は行政、地域の皆様、ボランティアの皆様、小学校、中学校それぞれが連携してやっていただけて支えてくださっているんだなということを見ながら確認をしていたところです。

先ほど大きく課題が 2 件、1 点目が調べ学習について、2 点目が親子読書のことについて非常に課題を投げかけてくださっていました。まず反省しています。小学校の運営を書いたページがあったんですけど、18 ページの学校の図書館運営ということで、なぜ調べ学習がなかなか進展しないかという課題を見た時に、学校図書館の全体計画や運営に、学校経営、当然校長が参画して、職員全体で組織的にやっていけなくちゃいけないと反省しております。

調べ学習、先ほど井手委員もおっしゃいましたけれども、今、小学校、中学校、35 校で図書館教育研究会をつくっております。一昨年から私も入りまして、調べ学習をどう日常の中に取り入れていくかということで、本を読むだけじゃないんですよ。虫を調べたり、社会科で調べたり理科で調べたり家庭科で調べたり、全ての教育活動の中で子どもが主体的に調べるような指導計画を立てない限り、子どもの調べ学習の能力が進まないということ

で、今、全教育課程の中に調べ学習というコマをしっかりと位置づけようということを進めているところです。全国で賞を取られました古賀西小学校から学ぼうということで、前回、糟屋地区の小中学校が全部集まって授業を通して調べ学習の時間を研修しているところです。当然、学校司書の先生も司書教諭も関わって、そこにやはりカリキュラムの最高責任者である校長がしっかりと見届けなくてははいけないなと思っております。

親子読書についても、さきほど草野委員がおっしゃいました、昭和36年から始まったということですね。校長会の中でもうちょっと私アピールしないといけないなと思っているところです。消えてしまってもいい組織だなんて絶対思っておりません。必ず存続させていくことが大事だと思っております。やはり啓発していかないといけないなと思っているところです。

意見というか課題、協議の柱が2点出ておりましたが、辞書引きもあわせて国語の中だけではなくやっていかななくてははいけないなと思います。

私自身はこの項目対照表を見て、短い間にすごい材料が、前回小郡方式と宗像方式でどちらか決めていこうということで、小学校に多分、ターゲットを絞られた表だと思うんですけども、横軸を見ていくだけで非常に変化や成長や先生がおっしゃった時代の流れも、如実に見えると思います。資料作成本当にありがとうございました。すみません、意見になりませんが。

(会長) ありがとうございます。その点につきましては、最初に小郡方式でいこうという確認をして進めております。山浦委員よかったです。

(山浦委員) 私は実は子どもの頃は余り本を読まないタイプの子供だったので、ここにいらっしゃるいろいろな活動をされている方々の頭を悩ませるタイプだったのではないかなと縮こまって聞いておりました。

そんな人間がなぜこの場に座るまでに本が好きになったのかということ、私は保育士として子ども達に読む側で、教室に最初のうち入らないような子どもも絵本を読むと座って聞いてくれていた経験から、クラスで子どもと一緒に楽しませてもらって成長させてもらいました。本がもともと好きというよりは、運動するほうが好きで外遊びばかりしていたので本に触れることが少なかったと思います。

大人になって本に興味を持って自分なりにいろいろ本を読むようになり、子育ての中でも子ども達に読むような一家庭の経験でしかないんですけども、先ほど高校生や中学生の読書量の低下のお話がありましたが、うちの息子は今高校生ですけど家ではすごく読んでいます。同じ本を何度も読むタイプで、地域に足を運んで読むということは少ないです。見えづらいけども、皆さんがいろいろな場所で活動してくださった働きかけは、うちの子ども1人の例ですが実を結んでいる例もあると思っています。

今子育てサポーターとして古賀市の子育て支援課で行われている活動に参加させていただいているんですけども、ブックスタートで図書館の方が来られて絵本を読んでいる様子を見て、いろんな働きかけがあるんだなと感じています。子育てサポーターの中で感じているのは、一軒一軒の家庭を4か月健診や10か月健診の冊子を持ってお伺いする時に、お母さん方がたくさんお話ししてくださるんですね。子育てサポーターの活動の中で勉強会などお母さんが勉強する場はあるんですけども、話す機会は少ないのか、一杯おしゃべりできるという機会が少ないから、「すみません、しゃべりすぎて」とおっしゃいます。お母さんたちが絵本を楽しむ、大人が絵本を楽しむ活動もいろんなところであったりするので、そういった機会も何か入れていいのかなと思いました。

私は大人が絵本を読むということで勉強して資格を取ったのですが、ある企画で絵本をプレゼントしてもらいました。私にこれがいいんじゃないかということでプレゼントしてもらい、私もその相手を思って、笑顔が印象的だ

からこの本を選びましたという感じで選んだんですけども、初めての体験でとてもうれしかったです。親が「絵本はおもしろい」と思うと、家庭の中で読むんじゃないでしょうか。1歳児 2歳児になるとやっぱり働きに出る方が多いので、まだ働きに出ていない間、4か月健診等で機会が設けられるかなと思います。

例えば、一年に一度、1歳児にはこれを、2歳児にはこれを、3歳児にはこれをというふうに、絵本を毎年プレゼントする、自分はそういうふうにしてみてもよかったなと思いました。記録が残るとこんな思いであげていたんだなと自分も振り返れるし、子どもも20冊の中で、こんな思いでもらったのかなと年表のように見られるかなと思います。具体的な案をいろいろ言うと、お母様方もこれやってみようかなとか思ってくださいんじゃないかなと思いました。

『おおきな木がほしい』という絵本がすごく好きで印象に残っているんですが、今でも本が残っていて、子どもの時に手元にあるってことはやっぱり親が読んでくれていたんだと思います。自分は記憶にはないんですが、後で振り返ったときに、また違った見方ができるというのが実体験の中であるので、そういうのを感じながら今この場に居させていただいています。

(会長) 河村副会長さんが言われたような厳しい社会情勢の中でも、大人が絵本を楽しむ環境づくりを小さい頃からやっていくということが大事じゃないかということですね。

この後は推進計画についてお話していただきたいと思っていますが、その前に福岡県立図書館の栢村委員さん、何か今までのお話をお聞きしていかがでしょうか。気づかれたことや思いなどございましたら。

(栢村委員) 皆さんの具体的な活動の報告と成果と展望をお聞きしまして、こんな事を聞く機会はなかなかないので非常に貴重だと思いつつも、私は会議の流れを心配しています。第1回で事務局から会議開催スケジュールをいただいて、7月19日に第1回の会議があった後、ワーキンググループの活動の内容が案として書かれていまして、その成果がこの分厚い用紙だと思いますけれども、これを学校、読書ボランティア団体、私立保育園、幼稚園などに依頼して、締め切りが8月中旬だと。

そして8月、子ども読書活動調査がまとまってワーキンググループの会議は8月末に行う予定で、この調査活動をもとに第3次構成案を作成し、10月ごろやるアンケート調査依頼のためのアンケート調査についての話がされている予定となっているので、事務局にワーキンググループの流れをお話しただければと思います。

(会長) 計画の事、アンケートの事などもありますので、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 各委員さんから活動の成果と課題と今の思い、読書活動を取り巻く社会情勢などについても話をさせていただきまして、事務局としてもしっかり頑張っていかなければと思っていますところですよ。

資料の「子ども読書活動調査用紙まとめ」を開いていただいたところですけども、これは過去5年間の具体的な子どもの読書に関する取組事項を市役所関係部署、学校、保育所、幼稚園、ボランティアさんに広く調査したものです。これをここで一個一個見ることはできませんので、またしっかりと見ていただきたいなと思っていますところですよ。これがもとになりまして、第3次計画をまとめていくことになります。

この取りまとめたものを使いまして、9月15日にワーキンググループ会議を行っております。ワーキンググループの会議では一個一個取組状況と成

果、進捗状況を見直しておりました確認をしたところです。ワーキンググループの中では第3次の章立てにつきましてもしっかりと見ていただいて、ここに提案する子ども読書活動推進計画の項目対照表という一覧を今日お出ししているところです。

子ども読書活動推進計画の項目対照表をご覧になっていただきたいと思います。説明をさせていただきます。1番左側、第1次計画を平成18年の4月につくっております。その後改訂版を真ん中の欄、平成24年の10月に作成をしております。今回策定会議をしていただくところが右側、第3次で平成28年ということを書かせていただいております。第1次から改訂版にうつりますところでは、簡単に申しますと、県を踏襲する形で作成しております。初めにとるところの後に5年間の取組の成果、これまでの取組の成果と課題というところで序章を前に持ってきまして、1章に計画策定の背景、2章に基本方針、3章、4章、5章を計画の柱ということでつくっております。

今回第3次に行きますときに、こちらの提案として、計画策定の背景を第1章に持ってきたらということで、ここは大きな趣旨は変わらないということがありますので、第1章にきちんとそこに据えて持ってきて、前回序章で書いておりましたこれまでの取組の成果と課題というのを第2章、後は前回の流れどおりにしたらどうだろうかということで考えております。この章立てを皆さんに審議していただきたいと思います。

その前に、計画の目標というのが改訂版の9ページにあるんですけども、第2章として古賀市子ども読書活動推進計画の基本方針、計画の目標を書いております。事務局としてこれは基本的なところなので変えないでいきたいと思っております。

10ページ、計画の三つの柱ということで、1、2、3というふうに書いております。ここも事務局としては、第3次もこのままいきたいと思っております。その辺から委員さんの意見を出して協議していただければありがたいと思っております。以上です。

(会 長) 第3次ということで文字の色については緑色が若干修正して入れかえたところ、赤色が新しく入れたところと理解していいでしょうか。

(事務局) 文字が緑色のところにつきましては、今回の案としてどうだろうかということで入れかえたところです。赤いところですけども、例えば変更になったところ、新しく入れたところを赤で書いております。例えば、第2次から第3次で変更したところは2ページ目の家庭地域の(6)コミュニティ活動の支援の追加をしています。あと(11)、学校図書館の地域開放というところで昨年度から開放しておりますのでそこを新しく入れております。(13)(14)につきましては、改訂版では「高等学校・養護学校における取組の支援」ということで一緒にしておりましたけれども、高校、特別支援学校それぞれに充実した活動がされておりましたので、分ける形でいきたいと思っております。

3枚目、図書館では新しい事業に取り組んでおります。(3)セカンドブック事業の取組、(4)読書ノート配布事業の取組を新しく入れております。

第5章ですが、改訂版の第4章(2)、1(2)で地域文庫と児童館との連携ということを書いてありますが、地域文庫、児童館での取組がそれぞれ充実してきているので分けてというところで(2)(3)と分けています。

第6章の1番下のところですけども、改訂版では学校教育課で古賀市小・中学生リーディング・リーダー・プロジェクトを取組んでおりましたけれども、今度、図書館で中学生に限って古賀市中学生読書サポーターの取組を実施しておりますので、それを書いているところが改訂版と違うところとなります。以上です。

(会 長) わかりました。この事について皆さんの御意見をいただきたいということ

ですね。計画の三つの柱がこれでいいかということを確認しなければいけないですね。それでは三つの柱、これまで一つ目が家庭、地域、保育園など、それぞれのところの読書活動の推進、二つ目が連携・協力関係、三つ目が啓発、理解関心の普及、啓発活動が大きな形で柱になっているわけです。それを踏まえて個々にいろいろ先ほど細かく出してきました。そして新しい赤色のところは、こんなふうに分けたり、新しく入れたらどうだろうかということですので、このあたりの御意見等をちょっとお伺いします。

これまで成果と課題をずっとお話していただいたのは、こういったことをこの中に入れ込んでいく、あるいは修正していくという部分がありますので、そういう意味でしっかりこういうようなことを今回お聞きしたわけですよ。そのことを踏まえて、これから次回からもっと具体的に入っていきます。そういったものを今までのお話も記録してありますので。

そしてこの子ども読書活動調査のまとめもしっかり読まないで、36 ページにわたったこの内容をざっと見ながら、入れるべきことは入れる、変えるべきことは変えて計画に生かしていかなければと思いますね。生の声をお聞きしましたので。

計画の三つの柱、私は最初の頃に申し上げました、子ども達の自主的、主体的な活動、この中では1番か3番かそのあたりに入ってくるんじゃないかなと思いますので、この三つで良いかなとは思いますがね。

どうですか、この方向で、やはり同じじゃないかなと思うんですが、内容は、先ほど言われた社会情勢とのかかわりで非常に基盤的な意味も含めて文面が一部やっぱり今の時代に即して、あるいはこれからの予測される時代に即して文面が入ってこなければおかしいと思うんですね、その辺りはまた煮詰めていくんですけど。大まかにはいいですかねこの柱ということで。

あと緑色、赤色で示しているところ、それ以外のところも含めてこのように整理していただきましたのでどうでしょうか。御意見があったらどうぞ。

(渋田委員) さっきの3本の柱ですけど、会長さんや河村副会長も言われたように、社会情勢とか違うので、このまま行くべきではないと私は思います。文言を「子どもの自主性を育むために」とか、せっきくの改訂なのでそこは時代に沿って変えていったほうがいいので、このまま三つの柱のこの文面でいくんじゃないなくて文面を変えたほうが私はいいと思います。

(会長) 柱をこれまでと全く同じ文面じゃなくて、これを工夫した方がいいと。

(加藤委員) 私も同じように思います。

24年度にたてた計画と全くおんなじ計画ということはこの計画が何も達成できなかったっていうふうにもなるんじゃないかなって思うんです。とても大枠の目標ではありますけれども、ある程度達成できた目標がたくさんあったと思うので、それを踏まえてさらにどういうところに進むかっていうところで、主体性とか時代の要請に対応するとかといったような文言が入るべきじゃないかなと思います。

(会長) 大まかな柱なので、具体性がこの後の項目に入ってくるんですよ。今回は項目だけで、それは次回指し示されるんですかね。それともこれをチェック、直していくってことなんですかね、柱とここに細項目がありますよね。大事な柱でこういうこと言いますよってこと書いてありますよね。その文言というのはこのこと言ってるんですよ。2次のときに起こされた、そこからプラスアルファの文言を入れていきますよっていうのが、次回とかに文書が出てくるんですかね。追加した文書がこうですよとか。

(事務局) これは章立てですので、大まかなところになると思います。具体的な計画

の中の文章はまだ検討していないところです。

(草野委員) 私はやっぱり大きな柱のというのは1つたっていて、中身が出てきたいろんな問題点、これからの目指すところを、細かい項目のところが変わってくるのかなと思っているところです。柱を変えちゃうと、何かちょっと違うような気がしております。私個人の意見です。

(事務局) 事務局から補足したいと思います。
三つの柱の1は、家庭、地域、保育所など、個々で取り組む内容と環境づくり、2は連携をしながらしている活動、それから3は、子ども読書に関する理解と関心の普及というところで、啓発の部分の三つの柱っていうところにはなっております。

(井手委員) 私ちょっと理解ができてなくて申しわけないんですけどその柱のところの、例えば、1家庭地域の(1)(2)(3)(4)(5)とか、カッコ部分がありますよね。その中の内容は、今後まだということですよ。これはこのままっていうことですか。

一つつけ加えさせてもらいたいところがあって、先ほどお話しさせていただいた中で、2歳児さんのところは保護者の方にセカンドブック事業の取組があったんですけども、できればちょっと増やしていただきたいというのがありまして。例えば1歳7か月健診の時に皆さんに配布するとか、3歳児健診の時に配布するとか、中身のところの査定はできるんでしょうか。

(事務局) セカンドブック事業は今年始めている事業で、3歳の誕生日を迎えられた方に案内を送りまして、図書館で、セカンドブック事業っていうのをしておりますので、全員対象です。図書館に来ていただいて配布しておりますので、図書館とつなげたいという思いがあります。

本を読む読書習慣をつけてほしいということで、ブックスタートはサンコスモ古賀で行っているんですけども、セカンドブックは図書館に来ていただきたいなという思いがあったものですからそうしております。セカンドブックおはなし会に来ていただけない方はカウンターの職員に言っていただいて、個別にお渡しするっていうことで今考えているところです。

(会長) 次回に目標や柱の具体的なことを変えるなり、私は基本的に目標や柱はそんなに大きく変わらないかなと思っています。具体的な内容のところでごつと変わっていろいろ入ってくるという考えを私は持っているんですけど、9ページ10ページあたりの文言を、定義を、同じにせよ違うにせよ次回に検討するということでいいんでしょう。それともここで決めてこれでいくというのであれば、この章立てでいうと、4章以降も入っていくのか。

(館長) 今回こういう章立てでいかがでしょうかということで提案させていただきました。計画の三つの柱及び計画の目標というのは、本来子どもの読書活動推進に関しては、会長からも言っていただきましたけども、大きなところは読書活動については変わらないのではなかろうかと思っております。

今まで三つの柱は第1次、改訂版と同じ柱として使ってきました。今後もこの柱をもとに、新たな小さな施策というのは色々これから先、その目標に向かって変わっていくと思っておりますけども、基本的な考え方というのはそれほど読書活動っていうのは変わらないのではないかなと思っております。確かに社会情勢の変化というのもありますけども、いかに子ども達に今後、本を手に取りさせるか、読ませて読書の楽しみ喜びを感じさせるかというのがこの読書活動推進計画の最終目標ではなかろうかと思っております。

そのような中で、計画の三つの柱というのは政策が何も進んでなかったか

ら変えなければならぬというものでもないのじゃなからうかと思っております。

大きな柱をもとに改訂版を進めてきたこと、またさらに進めること、第3次で新たに始めていくことというのを、これから先の項目の中の文章の中に示していく。あるいは修正していくという形になっていくんじゃないかなと思います。これだけ項目の数が多いから、次の協議会の中で、全てを示すことができるかどうかは、事務の進捗状況にもよりますが、できないうちかもしれませんが、やはりある程度半分ぐらいとか、第何章まではできましたとか、第何章まで見ていただけませんかというような進め方で、策定を進めていきたいなと思っております。よろしくお願いたします。

(会 長) 次回提案内容が少しずつ具体化していきますので、それを提案していただくべく御準備をお願いしたいと思います。

学校読書調査アンケートの今後の状況はいかがでしょうか。

(事務局) 学校読書調査アンケートについてですけれども、当初の予定では10月実施ということで進めておりました。

配布をする直前で見直し、いろんな方に見ていただいたんですけれども、学校読書調査の内容が難しく、短い時間の中でしていただくのが難しいという意見をいただきました。古賀独自の取組もありますので、古賀独自で作ったほうがいいんじゃないかという御意見をいただきましたので、少し時期は遅れるんですけれども、もう一度見直しながら、考えて1か月ぐらい遅れると思いますけれども、その方向で実施をしていきたいなというふうに考えているところです。

(会 長) わかりました。11月となると時期が、次回には何か全体像が見えてアンケートの概況が報告できるかなというところですかね。

(事務局) 次回には、アンケートの内容とかをお示しできるかなと思っております。

(会 長) わかりました。

(2)その他

(会 長) その他に進めさせていただきます。

いろいろ御意見あるかと思いますが、時間のこともありますので、会議録の校正の件についてお願いします。

(事務局)

会議録の公開に先駆けまして、委員さんに校正の御協力ということで、毎回、2人の委員さんをお願いをしまして、順番に校正をしていただけないかということをお願いしておりました。今回、青木委員さんと山浦委員さんをお願いできないかということで、先ほどお話をさせていただきました。会議録ができましたらお手元にお届けしますので、ご覧いただいて訂正等していただき、ご署名のうえで返送していただくこととなりますので、ご多用中とは思いますが、ご協力よろしくお願いたしたいと思っております。他の委員さんにつきましても、次回以降の委員会で回らせていただきたいと思いますので、よろしくご協力お願いたいたします。

(会 長)

ありがとうございます。よろしくお願いたします。

膨大な文字量で大変だと思いますが、会議録を確認する、校正するという作業もありますので青木委員さん山浦委員さんご協力お願いたいたします。

(橋本委員)

次回以降にお願いたしたいことがあります。

協議の内容、例えば今日だと(1)が古賀市子ども読書活動推進計画についてと書いてあるんですが、この資料を見た時に何のどこを協議するのかなと思いました。私途中で来まして、この資料を見た時に3年間の推移があるから時代の流れを反映して何を強調するのか、今日決めるんだろうなど。議題とかを推察したんです。次回からは、何を協議していくのか、古賀市子ども読書活動推進計画の中のどの段階の何を決めていくのか、協議していくのかという協議の柱を明確にさせていただくと、知見をお持ちの皆様が集まってくださっているので協議が深まるのではないかという感想を持っております。

(会 長)

(1)のこの概念について次はもう少し一歩踏み込んだ項目立てが必要という意味でしょうか。その辺を工夫していただけると良いと思っております。

(事務局)

御意見ありがとうございます。

協議がしにくかったと思いますので、今後考えていきたいと思っております。

ご意見ありがとうございます。

(会 長)

次回の日程ですが、今のアンケートの結果となると、集約できるのが11月いっぱいかかるかなという予想をするんですが、11月の末または12月の初め、11月の後半だと、25日金曜日、29日火曜日あたりを考えたいと思いますがいかがでしょうか。時間はできれば今日と同じでと思うんですが、不都合があれば、学校の方もいらっしゃいますので。松村委員さん遠くから来られていますが。

(松村委員)

私、実は那珂川町の同じような委員をしているんですが、那珂川町は19時から始まります。地元の方、学校の先生とか幼稚園、保育園の方がいらっしゃるので。つい一昨日ありました。

(会 長)

夜というわけには、私はいいんですけど、ちょっと難しいかな。となると午後。25日、29日の午後ってということですけど、ここはちょっとまずだめという方。

(橋本委員) 両日ともだめです。

(会 長) 午前中というわけにはいかないですかね。他の方どうですか。
ここが悪いという日をどうぞ言ってください。

(加藤委員) 29日はだめです。

(会 長) しかし11月アンケートをまとめるのに25日、早くなればなるほど大変なような気がしますけど、大丈夫ですかね。12月の初めでもいいような気がしますけど、そうすると後が遅れるかもしれませんけど。アンケートをやるということは25日より前までにまとめないといけないでしょ。

(事務局) 事務局の進め具合を考えながらまた調査させていただきたいと思います。

(会 長) 私は完全に水曜日と木曜日がだめなんです。すみません。アンケートのまとめは簡単にはいかないんですよ。橋本委員さんが25日に難しいということですけども、25日ということに進めさせていただいてよろしいでしょうか。25日2時ということでもよろしく願いいたします。
以上で、遅くなりましたが協議については終わります。

(事務局) 協議ありがとうございました。鈴木会長ありがとうございました。

4 閉会のことば

(事務局) それでは閉会の言葉を教育部長清水よりいたします。

(部 長) 事務局の不手際がありながらもたくさん意見をいただきまして進めていただいて鈴木会長さんありがとうございました。

世の中は読書の秋というふうに移ってきております。皆様におかれましては秋の夜長を読書して楽しんでいきながらその良さを子ども達に伝えていければなと思っておりますので、今後とも良い意見をいただきますようお願いいたします。第2回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会を終わります。

ありがとうございました。

(事務局) 本日は、ありがとうございました。気をつけてお帰りください。

(松村委員) 前回お知らせできなかった福岡県子ども読書推進計画の第3次というのが、ようやくできまして、福岡県のトップページに子育てと教育という欄がありまして、そこからご覧になることができますのでお伝えしておきます。よろしく願いいたします。日付は9月1日です。